

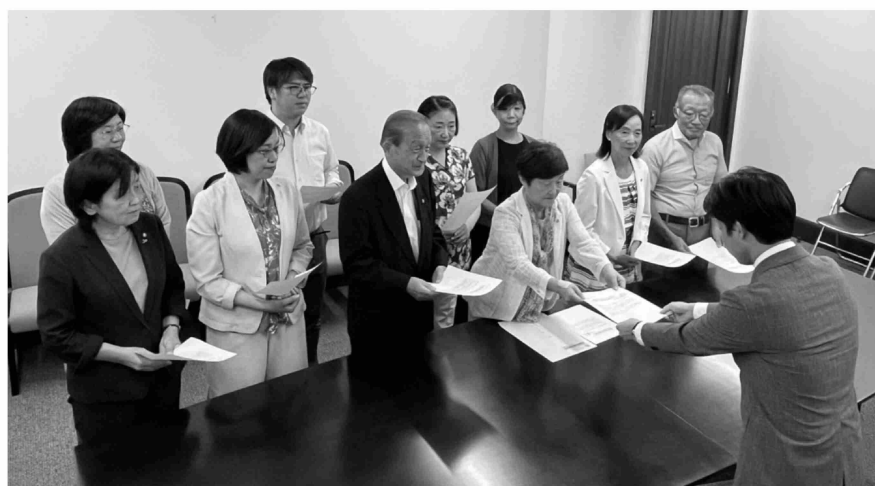


最低賃金 全国一律1,500円以上に引き上げを！ 中小企業への直接支援制度の創設を求める申し入れ

日本共産党市会議員団は、京都市長に対し、8月21日に以下の内容の申し入れを行いました。「厚生労働省最低賃金審議会は、8月4日、全国平均63円引き上げるとする目安を示し、全国平均は1,118円となり、都道府県すべてで最低賃金が1,000円を超えることとなりました。京都府では1,121円に引き上げられる見込みですが、実質賃金は3年連続マイナスであり、また異常な物価高騰が続く中、市民・労働者の生活を守るためには大幅な最低賃金の引き上げが求められます。京都総評の京都最低生計費試算調査では、20代の若者一人暮らしで1,889円が必要との結果も示されています。石破首相は「2020年代に1,500円に」と表明されていますが、早急に全国一律で最低賃金を時給1,500円以上に引き上げ、1,700円、2,000円を目指すべきです。

近々に京都最低賃金審議会による答申が示される予

定ですが、1,500円以上への引き上げに向けて京都市が最大の努力をされるよう強く求めます。同時に、中小零細業者に対する支援が必要です。国に対し、最低賃金引き上げに伴う中小企業への直接支援制度の創設を要請するとともに、京都市独自に早急に創設することを求めます。



議員日誌

環境福祉委員会で他都市の調査を実施しました

京都市会の環境福祉委員会に所属する議員（13人）は、8月18日～20日にかけて、他都市調査を行いました。日本共産党は、河合葉子委員長、山田こうじ議員、西野さち子が参加しました。8月18日は兵庫県三宮にある萩原珈琲工場の超短時間雇用についてと神戸市役所で電池類回収ボックスの取り組みについて。8月19日は福岡市役所で夜間ごみ収集についてと福岡県庁で障害者の短時間雇用についてを聞き取り調査。8月20日は大牟田市役所で認知症支援（認知症ケアコミュニティ推進事業等）の取り組みについての調査を行いました。最初に訪問させていただいた萩原珈琲工場は、「障害を持った人にも特技がある。その能力は健常者にはできない役割を果たす。」という社長の考えから、これまで機械化やIT化を進めてきたが、機械やコンピューターを取っ



払い、人の手で行うというものです。デジタル化からアナログへ、進化ではなく「たいか（退化）プロジェクト」をすすめておられます。コーヒー豆の在庫が目で見えてわかるように、10kgずつに分けて積みば目で見えてわかると、車いすの人でもコーヒー豆を10kgに分けられるシステムにした「たいかプロジェクト」など、効率化、儲け優先の新自由主義に堂々と対抗しておられるが、売り上げは伸びているそうです。コーヒー豆の焙煎も機械1台に一人で、熟練の職人を育て、「豆のはじける音で出来具合がわかる」「機会によって温度や時間が微妙に違う」と言っておられました。障害者も健常者も個人の特性を生かした働き方がここにありました。

8月23日にUR桃山団地の南大島児童公園で、恒例の盆踊り大会が開催され、今年も多くの子どもたちや外国の方も参加されました。馬場こうへい府会議員と西野さち子も参加しました。主催は、UR桃山団地の友の会です。地域の皆さんのボランティアや療法人、自治会、URなど多くの地域の協賛に支えられて、開催されているからこそ、多くの皆さんの参加があることを感じます。



第9回桃山団地
盆踊り大会